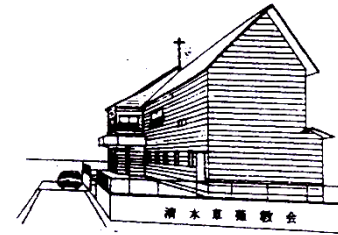


≪今朝の聖書から≫ 聖書の箇所をまとめると、“朽ちるパン”と“朽ちないパン”について、となるでしょう。イエス様は、“しるし”として人々に、豊かにパンをお与えになることをされました。しるしをみて人々は何を知るかが問題です。しるしが示している神様の世界といってもよいでしょう。主イエスのされる奇跡は、しるしです。見える人には見えませんが、気付かなかつたり、出来事は判ってもかたくなに無視することもできるのです。ヨハネによる福音書の2章が、先週の祈祷会では開かれました（カナの婚礼の記事）、水がぶどう酒に変わったことはしるしにすぎません。そのしるしすら、何人の人が知っていたかといいますと、ごく少数の者だったでしょう。私達は、水がぶどう酒に変わったことに心を集中させてしまいますが、イエス様は、“決して豊かな人々の集まりではなかったに違いない、この婚礼の席”を、恵にあふれるものにされたのです。また別の箇所をみましょう。最初の弟子たちが召されたとき、船があふれてしまうほどの豊漁があったことがありました（ルカ5：8）。水をぶどう酒に置き換えるようなマジックは、どういう仕掛けなのかとか、今夜も豊漁になる何かいい方法はないものかとも、誰も考えませんでした。彼らは神のしるし、永遠の命に至る命のパンを見たのです。けれども、パンの奇跡がなぜ起こったのか、“確かめて、同じようなわざにまた与かりたいものだ”と、この箇所では“不思議にいっぱいになったパン”のことを思い浮かべて、人々がイエスのもとにやってきたことが分かります。“群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知って、それらの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナウムに行った（24節）”とあります。湖の位置関係からいうと、北側の反対側ということになります。こんな熱意を人々に持たせた原動力をイエス様は、“命のパンであるみ言葉”ではなく、“よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである（26節）”と見抜いておられるのです。パンや魚や、ぶどう酒に心を奪われ、次のパン、今夜の豊漁、などと止むことのない、欲望こそイエス様は、“救いに至らない朽ちる宝”を見ておられます。ギャンブルにとらわれたように朽ちる宝を追うのはやめましょう。

週報

2008年 7月 13日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸